

回覧お願いします。

# 社協 高田支部

(住民アンケート特集号) 平成27年3月30日

皆様方には、日頃より支部運営に関しましてご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

また、今回アンケートを実施したところ多くの方々にご協力をいただき改めて感謝申し上げます。

このアンケートに寄せられた多くの意見や要望を今後の支部活動に活かし、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指して活動を展開して参りますので、今後ともご協力の程よろしくお願い致します。

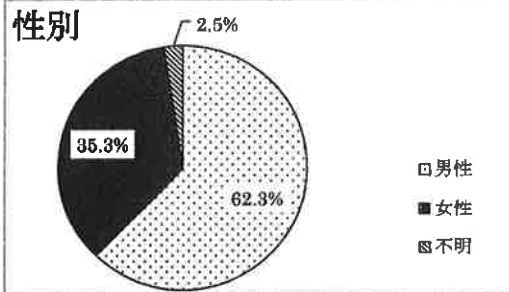
運営委員長 田中 宏

回収率

行政区	配付数	回答数	率 (%)
全体	262	204	77.8

問1. 男女別回答者数

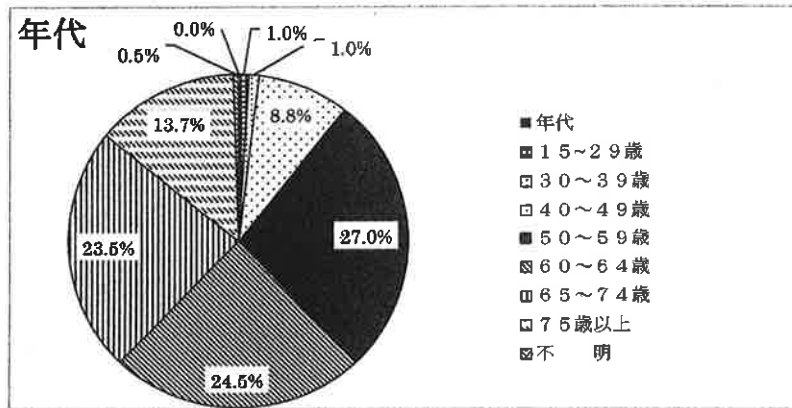
男性	127
女性	72
不明	5



○ 男性が女性よりも多い結果となりました。不明者は、アンケートに未記入者数です。

問2. 年代を教えてください。

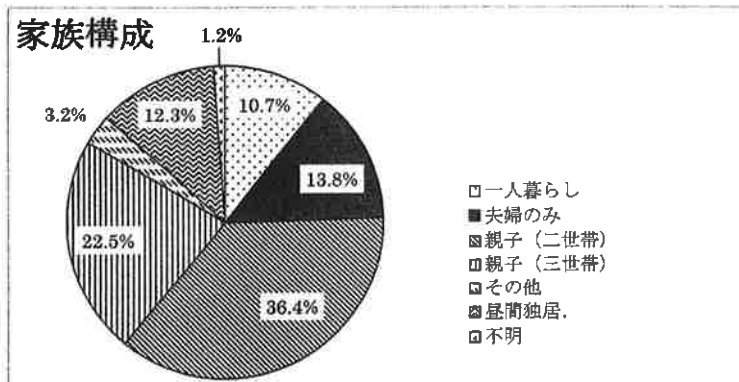
年代	合計
15~29歳	2
30~39歳	2
40~49歳	18
50~59歳	56
60~64歳	49
65~74歳	48
75歳以上	28
不明	1
合計	204



○ 64歳までの方が127人(62.3%)、65歳以上の方が76人(37.2%)となりました。特に50歳代の方が56人(27.0%)と回答の多さが目立ちます。次に60~64歳までの方が49人(24.5%)と高い比率となっています。

問3. 家族構成について

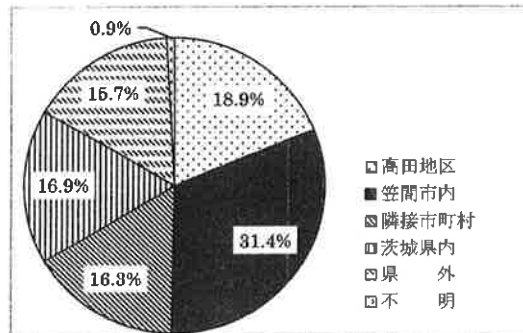
区分	合計
一人暮らし	27
夫婦のみ	35
親子(二世帯)	92
親子(三世帯)	57
その他	8
昼間独居	31
不明	3
合計	253



- 親子の世代が全体の約6割を占めているが、特に親子（二世帯）の比率が約4割を占めております。今後も夫婦のみ世帯から高齢の一人暮らしの世帯に移行していく状況から、助け合いや活動の場を設けていくことが重要になってきます。
- 昼間ひとりになる方も31人もおります。

問4. 近くに住む同居外家族や親族の状況

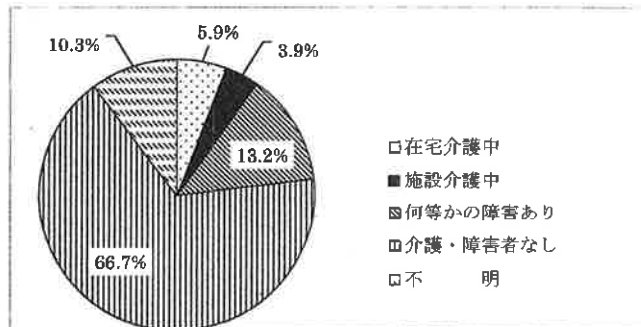
区 分	合 計
高田地区	66
笠間市内	110
隣接市町村	57
茨城県内	59
県 外	55
不 明	3
合 計	350



- 高田地区内及び笠間市内に家族、親族が住んでいる方が50.1%と、約半数の方が身近な地域に家族、親族がいることがわかりました。また、隣接市町村以上に家族、親族がいる世帯も49.1%と、「遠くの親戚より近くの他人（向こう三軒両隣）」の関係づくりが必要です。

問5. 家族の状況(介護中や障がいのある方がいる世帯の有無)

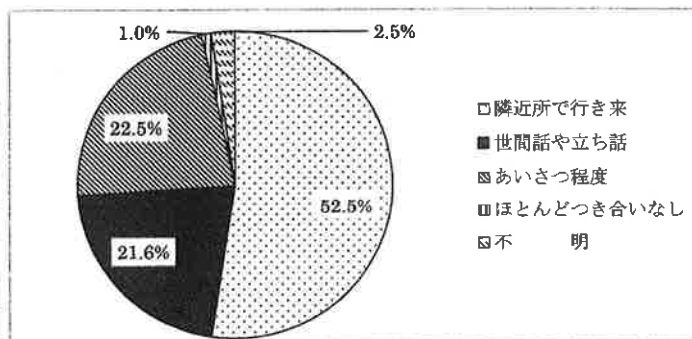
区 分	合 計
在宅介護中	12
施設介護中	8
何等かの障害あり	27
介護・障害者なし	136
不 明	21
合 計	204



- 現状では介護や障がいのある方がおられる世帯は少ないが、高齢化の進展に伴い介護を必要とする方が増えてくるのが予想されますので、日頃から地域での支え合い、助け合いの意識の向上を図る必要性があります。

問6. 隣近所、班内でのつきあいの程度

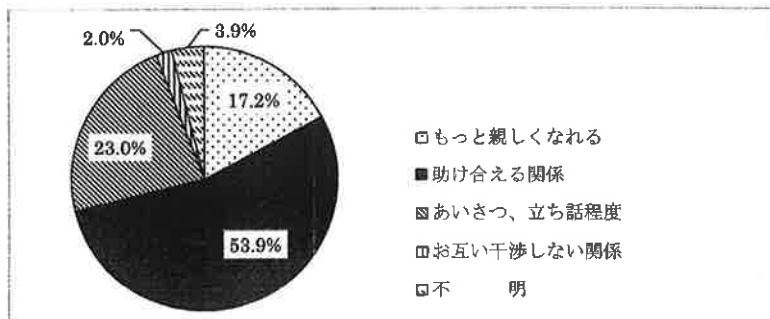
区 分	合 計
隣近所で行き来	107
世間話や立ち話	45
あいさつ程度	46
ほとんどつき合いなし	2
不 明	4
合 計	204



- 約半数の方が隣近所の方と行き来しており、近所づきあいが多いことが判明しましたが、更に暖かみのあるコミュニティづくりをすすめます。

問7. これからの隣近所、班での人間関係について

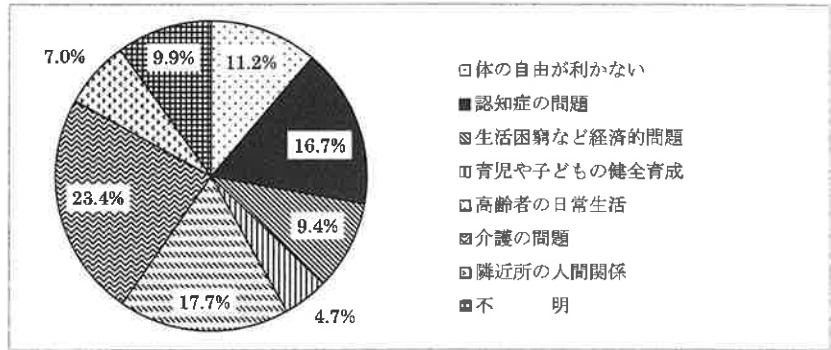
区 分	合 計
もっと親しくなれる	35
助け合える関係	110
あいさつ、立ち話程度	47
お互い干渉しない関係	4
不 明	8
合 計	204



- 身近に高齢者の方が増えていることや自分が高齢になったことを想像することで、隣近所や班内でお互いが助け合える関係でありたいと願う人が多い。この想いを一人ひとりが行動に移せるような地域づくりをすすめます。

問 8. 日常生活で困っていること、また今後困るであろうという問題

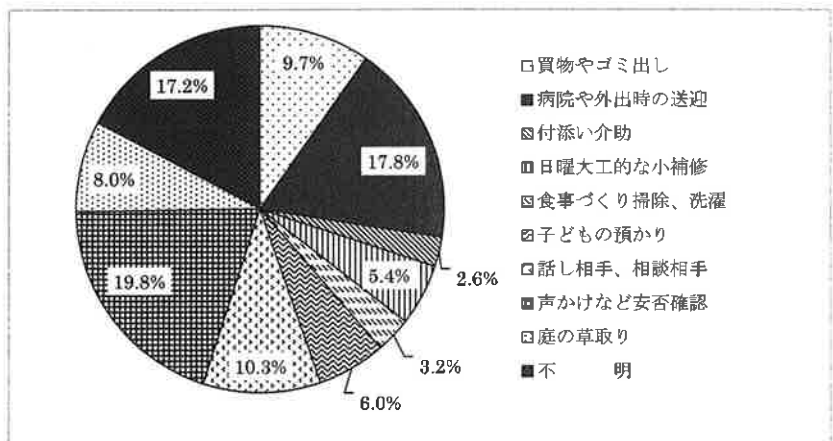
区 分	合 計
体の自由が利かない	43
認知症の問題	64
生活困窮など経済的問題	36
育児や子どもの健全育成	18
高齢者の日常生活	68
介護の問題	90
隣近所の人間関係	27
不 明	38
合 計	384



- 困っている。今後困るであろう問題の順位は、生活困窮など経済的な問題、介護の問題、日常生活の問題、認知症の問題となっています。今後の支部事業として実施できるものから取り組んでいく必要があります。

問 9. 高田支部内にどのような手助け・お手伝いがあれば良いか。

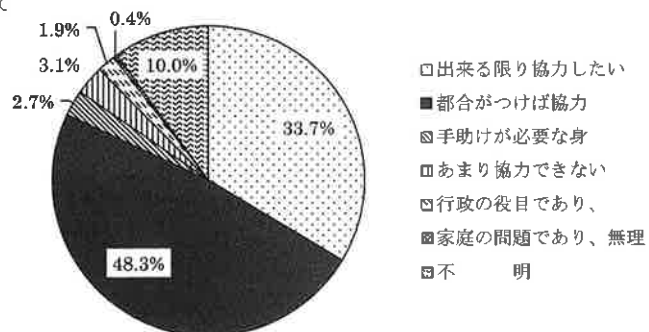
区 分	合 計
買物やゴミ出し	33
病院や外出時の送迎	62
付添い介助	9
日曜大工的な小補修	19
食事づくり掃除、洗濯	10
子どもの預かり	21
話し相手、相談相手	36
声かけなど安否確認	69
庭の草取り	28
不 明	60
合 計	347



- 高齢になった時には自分の力だけでは、対応できなくなる誰もが通る道。この道を通りやすくするために地域のみんで支え合えることになれば、ここで暮らしていけるようになると思います。

問 10. 隣近所、班、支部内の中での助け合いに対する協力について

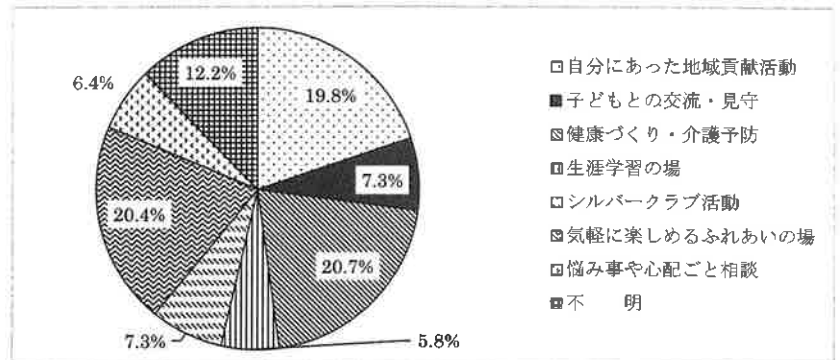
区 分	合計
出来る限り協力したい	88
都合がつけば協力	126
手助けが必要な身	7
あまり協力できない	8
行政の役目であり、	5
家庭の問題であり、無理	1
不 明	25
合 計	261



- 出来る限りと都合がつけば - を含め 82%、また協力できないという回答も 3% という結果になりましたが、皆様の協力意識をいかに活動に結びつけていくかが課題となりそうです。
- 皆が協力し合えることで信頼感も生まれ、この地に住んで良かったと言えるようになるのではないのでしょうか。

問11. 支部内にどのような活動の場があればいいと思いますか。

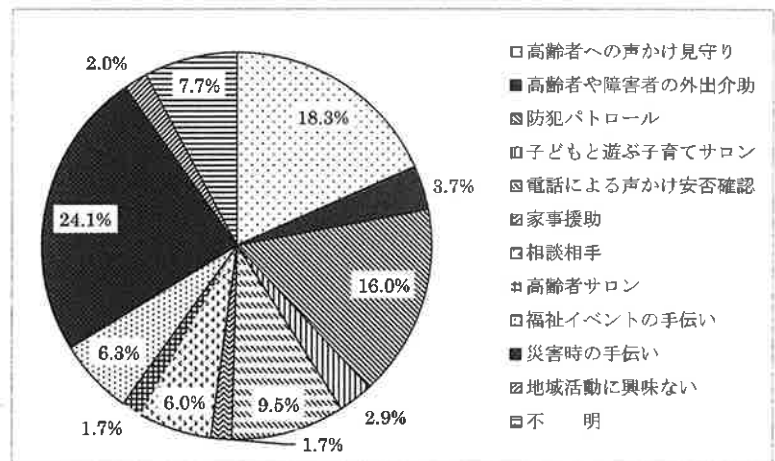
区 分	合 計
自分にあった地域貢献活動	68
子どもとの交流・見守	25
健康づくり・介護予防	70
生涯学習の場	21
シルバークラブ活動	27
気軽に楽しめるふれあいの場	70
悩み事や心配ごと相談	22
不 明	42
合 計	345



○ 元気で生きていくためには、身近な場所に自分にあった交流の場、活動の場があれば生活に刺激と潤いができます。健康づくり、介護予防の場を望む方が多いようです。多くの方が参加できる場をつくる必要ではないでしょうか。

問12. どのようなボランティア活動に参加できると思いますか。

区 分	合 計
高齢者への声かけ見守り	64
高齢者や障害者の外出介助	13
防犯パトロール	57
子どもと遊ぶ子育てサロン	11
電話による声かけ安否確認	33
家事援助	6
相談相手	21
高齢者サロン	6
福祉イベントの手伝い	22
災害時の手伝い	84
地域活動に興味ない	7
不 明	27
合 計	351

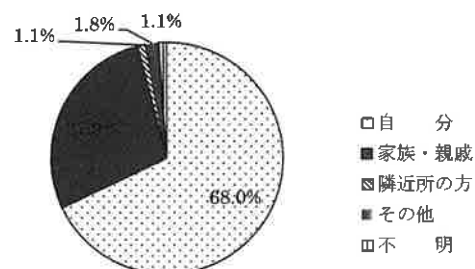


○ 約90%の方がボランティア活動に関心があることがわかりました。アンケートをもとに具体的なボランティア活動を推進いたします。

問13. 日常生活の買い物について

1. 食料品や日用品は、どのように調達していますか。

区 分	合 計
自 分	185
家族・親戚	76
隣近所の方	3
その他	5
不 明	3
合 計	272



○ 自分で買い物をする方が68.3%と高い割合となっています。次に28%の方が家族・親戚の方となり、実に約96%の方が自分または家族により買い物をしている実態が明らかになりました。車社会の生活がうかがわれますが、今後高齢化に伴い運転免許の返還等により買い物に支障をきたす方の増加が予想されます。

2. 今後、買い物にどのような支援が必要だと思いますか。

移動販売車等	25人	宅配料の支援	1人	買い物の足の確保	3人
買物代行	1人	宅配	10人	買物リストの配布と回収	1人
隣近所で分担	1人	移動ATM	1人		
買物付添い	1人	通販	2人		
コープ	1人	ネット販売	1人		

※ その他のアンケートに記載してあった意見・要望等

- 1) 寝たきりや認知症をなくす。
- 2) 大規模農業に転換する。
- 3) 地域の人との交流の場を設ける。
- 4) 子どもや高齢者が散歩できる公園整備。
- 5) 常会の単位を拡大したり、祭りや神社行事を見直す。
- 6) 地域の課題を解決できる組織をつくる。
- 7) 子どもが楽しめるような事業。
- 8) 健康教室（寝たきり予防、高血圧対策等イベント開催）
- 9) 交通弱者の把握
- 10) 電話等による支援の把握
- 11) 買物日の決定
- 12) 車の運転が出来なくなった時の対応
- 13) 民生委員等による支援と介護保険の活用
- 14) 班内はまとまっているので、このままで良い。
- 15) 定期的に交流できる場を設ける。（食事会や1泊旅行、気軽に参加できる交流の場）
- 16) 活動するためには、団体をつくる。
- 17) 限界集落の一步手前
- 18) アンケートの結果と今後の方針
- 19) 昼間独居の人への対応
- 20) 通信カラオケを活用した認知症予防
- 21) 防犯パトロールの体制づくり
- 22) 社協高田支部と行政の一体化
- 23) 災害に強い町づくり（災害予想と対策）
- 24) 公民館をふれあいの場として活用
- 25) 小中一貫校の設置
- 26) 山林管理
- 27) 美しい街並み、田園風景の保全
- 28) 子ども、親、高齢者の集いの場（学校の跡地利用）
- 29) 高齢者集会施設（行政が建設）
- 30) ボランティア活動を基本とした運営
- 31) パート社員及び雇用の確保
- 32) 買物弱者の把握
- 33) 子どもとの思い出づくり（バーベキューや日帰り旅行等）
- 34) 福祉バス（買い物支援）の運行
- 35) 温水プール等で体を動かす。（大洋村システム）
- 36) 参加できる環境づくり